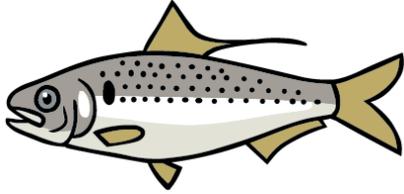


コノシロ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は4～7月で、産卵場は当初は東京湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

資源評価

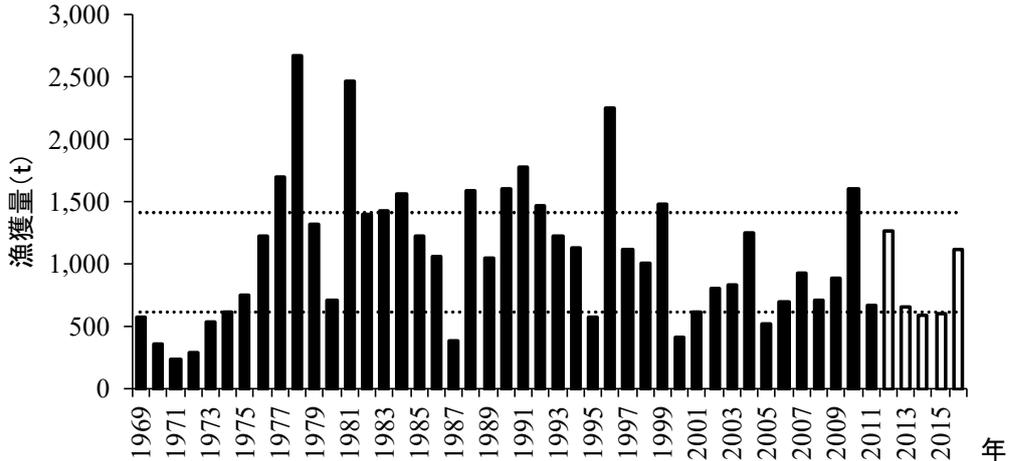
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



東京湾におけるコノシロの漁獲量の経年変化（農林水産統計年報）

- ・ 東京湾におけるコノシロの漁獲量は年変動が大きく、1978年に2,674tを記録したが、1980年には710tに減少した。2013～2015年は600t前後で推移していたが、2016年は1,123tに増加した。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、1969年以降の東京湾における漁獲量で判断した。
- ・ 長期的に大きく変動する傾向にあるが、2016年における資源水準は中位、2016年までの5か年の資源動向は横ばい傾向にある。

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾内において、底びき網では休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網では冬期に休漁期間を設けるなど、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

備考

- ・ 2017年以降の資源水準を東京湾A漁協におけるまき網漁獲量から判断すると、2017年は2016年を大きく下回るが、2018年は大きく上回り、2004年以降で最高水準になると見込まれる。